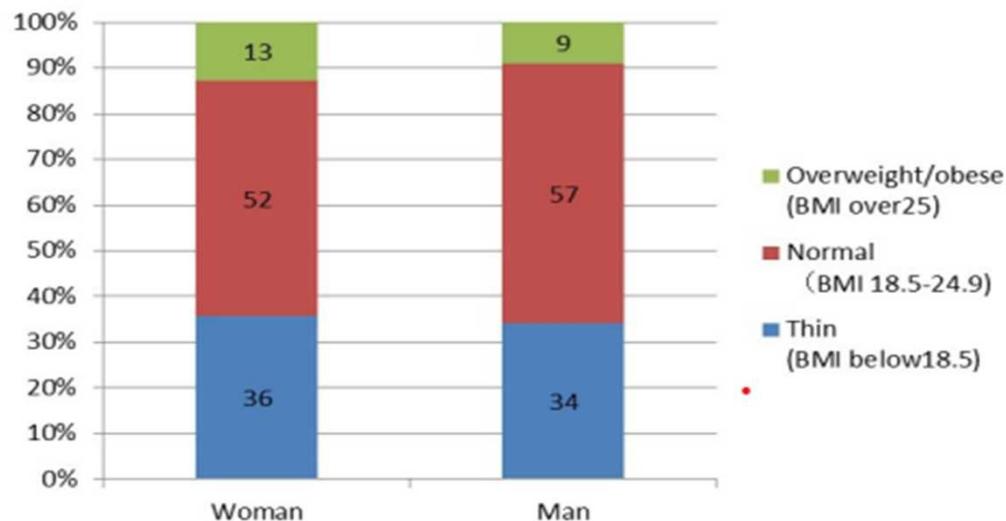


インド 肥満や体重過多の概況(1/4)

肥満や体重過多は、世界的な健康問題となっている。肥満は今や関節炎、脳卒中、心臓血管疾患、がん、糖尿病など多くの健康問題を引き起こすことが知られているが、根本的な解決ができていない国はまだない。**インドでも肥満と健康への関連性が指摘されており、対策の必要性が認識**されている。その背景に、インドの**体重過多および肥満者の割合が増加**していることが挙げられる。インドでも**肥満や体重過多の指標**として**BMI** (Body Mass Index) を用いている。肥満や体重過多に分類は、やせが18.5以下、ふつうが18.5以上~24.9以下、肥満あるいは体重過多が25以上と設定されている。2006年の統計によれば、低所得層から富裕層までを含むインド全国における15-49歳のBMIの数値で、肥満と判断される人は、男性が9%、女性が13%であると公表されている。割合では大きな数値ではないが、インドの人口規模を勘案すると、**人数は相当数いる**と考えられる。

図表・4 インドにおける男女別 BMI 数値 (15~49 歳)

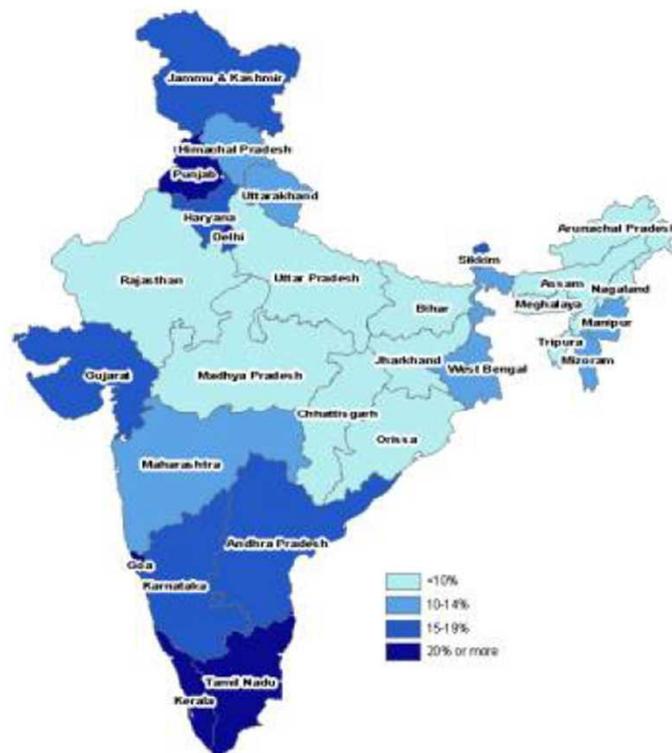


出所：MHFW, GOI, "Nutrition in India National"2009 より日本総研作成

インド 肥満や体重過多の概況(2/4)

州別では、体重過多あるいは肥満者が多い州は下記の通りとなる。**州の人口の25%以上**の人口が**肥満**あるいは**体重過多**となっている州は、**パンジャブ州、ケララ州およびデリー準州**であり、**人口の20%以上**が肥満あるいは体重過多となっている州は、**タミール・ナドゥ州、ゴア州**となっている。なお**BMI数値30以上を肥満対象者**として判断しており、**パンジャブ州**の9%、と**デリー準州**の8%が**特に顕著**となっている。一方、肥満あるいは体重過多の人口が**10%に満たない州**は、インドの**東部および中西部～中東5部に位置する州**となり、12州でその傾向が見られた。

図表・5 州別体重過多・肥満者割合状況（女性）



出所：MHFW, GOI, "Nutrition in India National"2009

*注"Nutrition in India"の中では、女性のみが言及されていた。

インド 肥満や体重過多の概況(3/4)

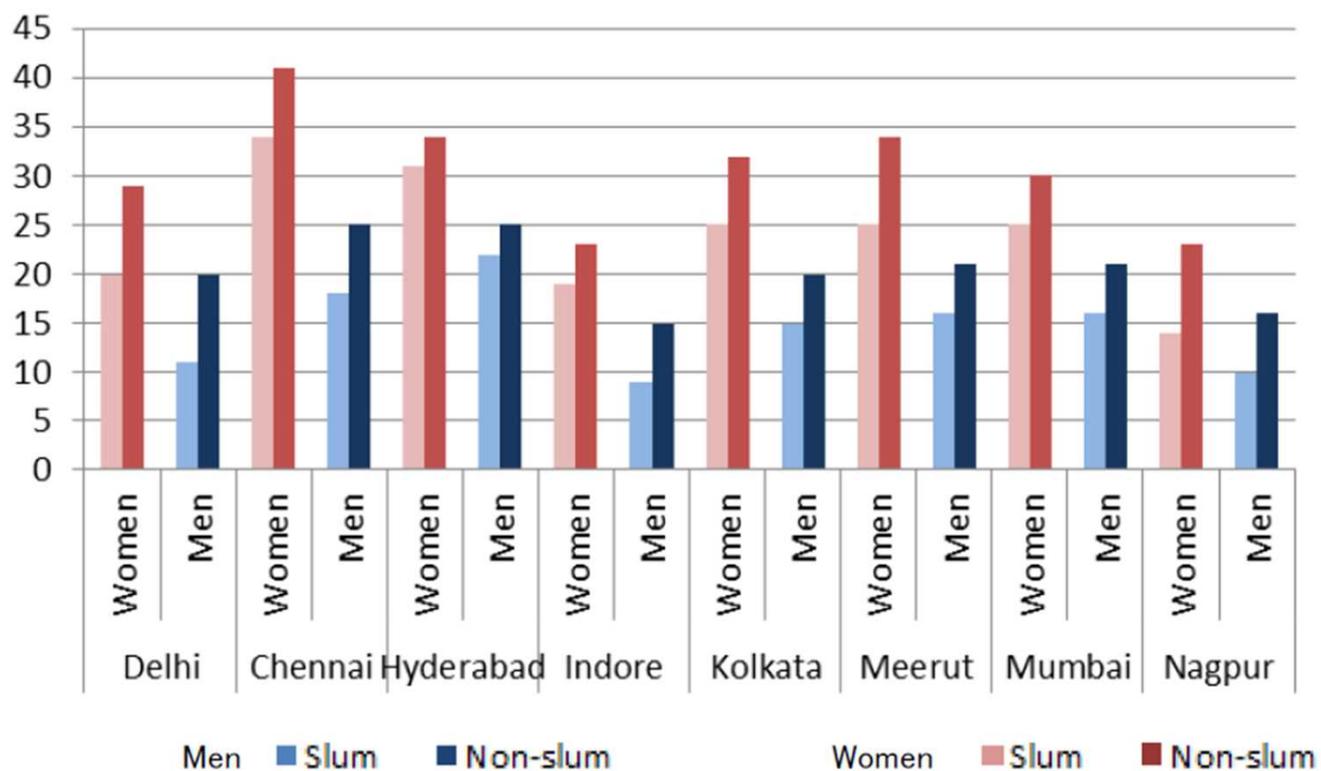
調査において、低運動量が肥満に結びついていることは発表されているが、特に南アジア地域においてこの兆候が顕著であるとの研究がなされている。肥満に結びつくような生活習慣は、経済社会における所得クラス、教育レベル、収入に左右されるとも言われている。インドのMinistry of Health and Family, Welfare (健康家族福祉省、以下、MHFW) が公表しているデータでは所得階級別の肥満具合も発表されている。居住地で区切ったものとなっており、スラムとスラム以外の居住地における肥満状況割合を調査している。スラムとスラム以外の居住場所別の男女肥満状況を見ると、調査実施地点の8都市においていずれもスラム以外の居住者の肥満割合が男女ともに高くなっている。

また、いずれの都市においても男性よりも女性の方が肥満者割合が高くなっている。詳細にみると、チェンナイのスラム以外に居住する女性が他の都市と比較して著しく肥満の割合が高く、4割を超えている。次いで、ハイデラバード、ウッタルプラデシュ州のメーラトとなっている。男性を見ると、女性同様、チェンナイのスラム以外に居住する人の肥満割合が他の都市と比較して高くなっている。男性も女性の傾向とほぼ似ており、ハイデラバードやメーラトなどの都市における肥満割合が高くなっている。

インド 肥満や体重過多の概況(4/4)

インドにおける健康への関心は決して低くはない。特に国や地方自治体などの行政機関、政策提言機関、医療業界においては、**高血圧や糖尿病、心臓血管疾患、脳卒中などを問題視**しており、解決が必要であるとの認識を示している。しかしながら、現状、まだ有効な対策を講じられていないところにインドの肥満対策の課題があると想定される。

図表・6 所得階級居住場所別肥満者割合状況（男女）



出所：MHFW, GOI, “Nutrition in India National”2009 より日本総研作成